

大和市市民環境調査事業

# ツバメ情報調査

## 実施報告書

平成29年度



## 目次

1 はじめに	.....1ページ
2 講習会の実施	.....1ページ
3 調査方法	.....2ページ
4 調査結果	.....3ページ
5 まとめ	.....6ページ

# 1 はじめに

ツバメは、環境省が実施した「身近な生き物調査」において、居住地周辺の（身近な）自然環境の動向を表している種（環境指標種）に指定され、調査されていました。

近年、ツバメは減少傾向にあると言われており、その背景には、エサ場となる水田や耕作地の減少、巣作りに適した日本家屋の減少などが影響しているのではないかと考えられています。

市内でのツバメ生息状況の調査を通じて、身近な自然への関心を高め、身近な自然を保全していく大切さについて理解を深めていくことに役立てるなどの目的で、「ツバメ情報調査」を平成26年度から開始しました。

「ツバメ情報調査」は、市民環境調査の一環として行っています。

## 2 講習会の実施

日時：平成29年5月21日（日）13時00分～15時00分

場所：大和市自然観察センター・しらかしのいえ

参加者：15名

市民環境調査員として調査にご協力いただくにあたり、ツバメに関する基礎知識を学んでいただくことを目的として、大和市自然観察センター及び日本野鳥の会の協力のもと、講習会を実施しました。

講習会では、大和市で見られるツバメやその見分け方、日々の生活スタイル、ツバメを取り巻く環境の変化、調査報告のやり方等について講義を行いました。

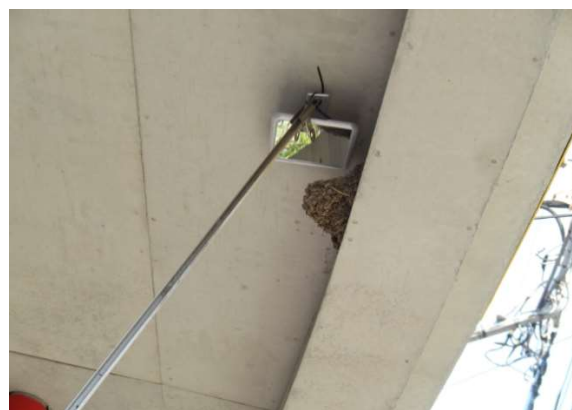
時間	内容	講師
13:10～13:40	・ツバメの生態について	自然観察センター・しらかしのいえ 秋山 博 氏
13:40～14:10	・ツバメの現状について ・ツバメの子育て状況調査参加方法について	日本野鳥の会 野口 真磨子 氏
14:10～14:25	・調査員証の授与	
14:25～15:00	・フィールドワーク 相模大塚駅周辺にて実際にツバメの巣を観察	自然観察センター・しらかしのいえ 秋山 博 氏

## 講習会などの風景…

ツバメについての講習会風景



ツバメの巣の観察風景



## 3 調査方法

「市民環境調査員」の方に、市内に営巣されているツバメの巣を確認していただき、その子育て状況を調査していただきます。

その調査した報告等を日本野鳥の会が運営するホームページの「ツバメの子育て状況調査」へ入力します。このホームページでは、大和市だけでなく、日本全国で調査されたツバメの巣などについて情報を閲覧することができます。

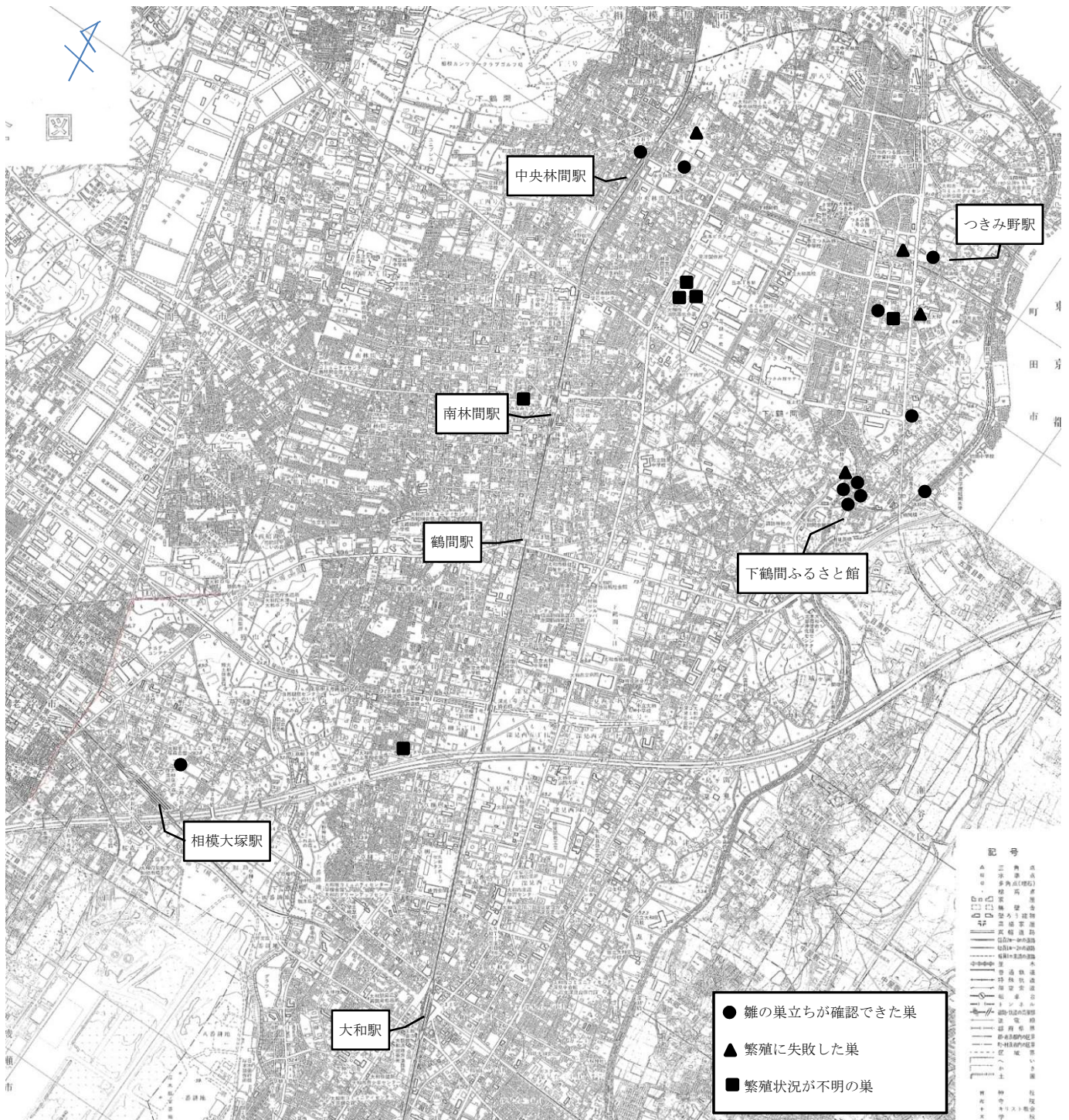
調査期間については、講習会の翌日から8月31日までとしました。

【参考】ツバメの子育て状況調査ホームページ：<http://tsubame.torimikke.net/>

## 4 調査結果

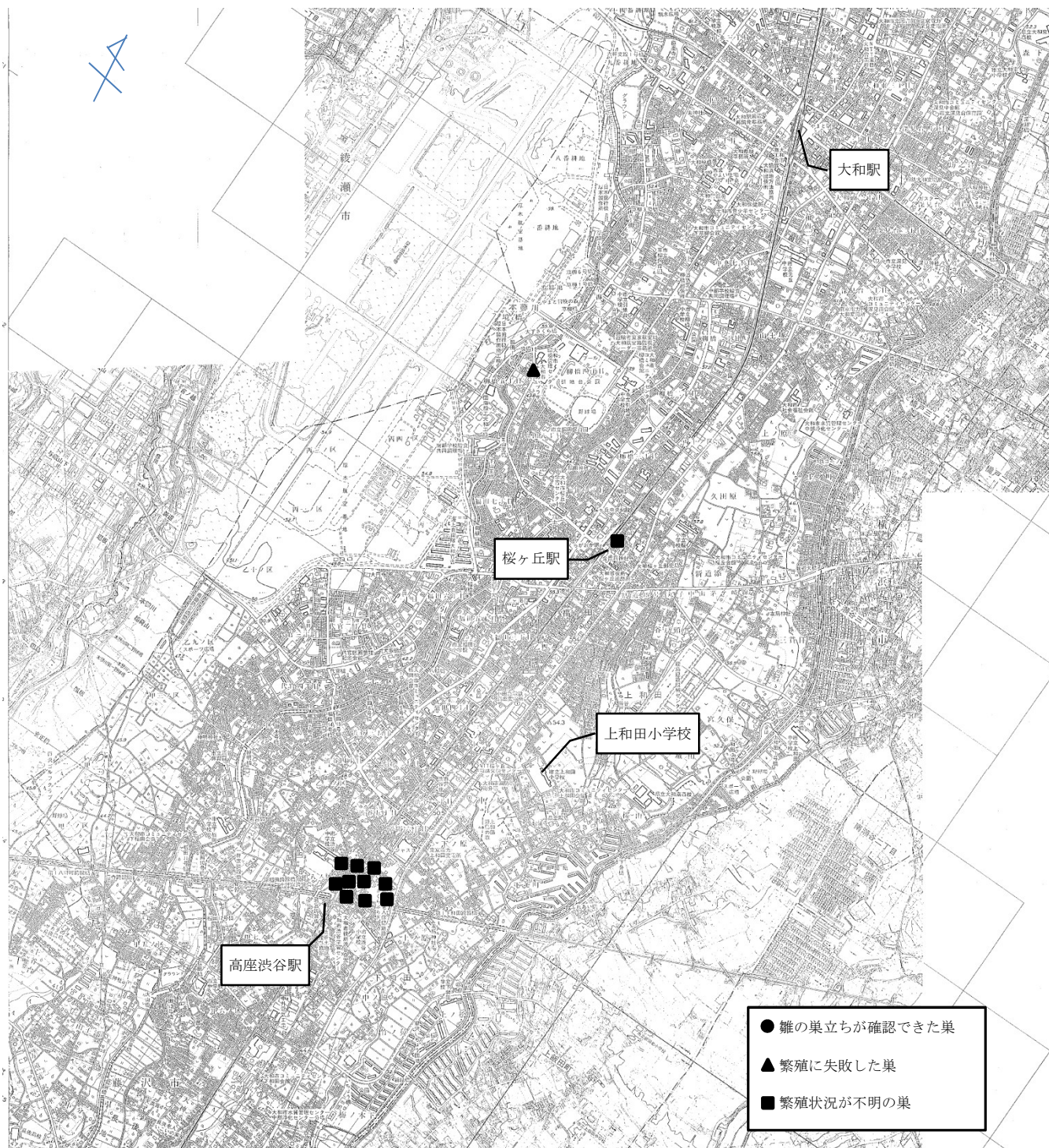
### 1) 北部～中部地域での営巣状況 (●と■の合計)

中央林間駅周辺等に5巣、つきみ野駅周辺等に3巣、南林間駅周辺等に1巣、下鶴間ふるさと館周辺等に6巣、相模大塚駅周辺等に1巣、上草柳地区周辺等に1巣の計17巣の営巣がみられました。



## 2) 中部～南部地域での営巣状況 (●と■の合計)

高座渋谷駅周辺等に 10 巣、桜ヶ丘駅周辺等に 1 巣の計 11 巣の営巣がみられました。  
大和駅周辺での営巣は確認できませんでした。



### 3) 繁殖状況について

#### ◎雛の巣立ちが確認できた巣（地図上●標記の巣）

場所	巣立った雛の数	備考
中央林間駅周辺等の巣1	4羽	
中央林間駅周辺等の巣2	3羽	
つきみ野駅周辺等の巣1	10羽	同じ巣で2回繁殖(6羽:4羽)
つきみ野駅周辺等の巣2	3羽	
下鶴間ふるさと館周辺等の巣1	3羽	
下鶴間ふるさと館周辺等の巣2	8羽	同じ巣で2回繁殖(4羽:4羽)
下鶴間ふるさと館周辺等の巣3	4羽	
下鶴間ふるさと館周辺等の巣4	4羽	カラスに1羽襲われたか
下鶴間ふるさと館周辺等の巣5	4羽	
下鶴間ふるさと館周辺等の巣6	10羽	同じ巣で2回繁殖(6羽:4羽)
相模大塚周辺等の巣	4羽	
合計	11巣 57羽	

※ 巣立った雛は最小で3羽、最大で6羽が観察され、合計では57羽の雛が巣立ちました。1巣あたりの巣立った雛の平均は、約5.2羽でした。また、1番仔平均は4羽、2番仔平均も4羽でした。

※ 1巣あたりで巣立った雛の平均/約5.2羽

巣立った雛の合計(57羽) ÷ 雛が巣立った巣の合計(11巣)

#### ◎繁殖状況が不明の巣（地図上■標記の巣）

場所	不明の巣の数
中央林間駅周辺等	3巣
つきみ野駅周辺等	1巣
南林間駅周辺等	1巣
上草柳地区周辺等	1巣
桜ヶ丘駅周辺等	1巣
高座渋谷駅周辺等	10巣
合計	17巣

#### ◎繁殖に失敗した巣（地図上▲標記の巣）

	巣の数	原因/備考
中央林間駅周辺等	1巣	1羽いたがカラスに襲われたか
つきみ野駅周辺等	2巣	不明
下鶴間ふるさと館周辺等	1巣	2羽いたがカラスに襲われたか
引地台公園周辺等	1巣	人によって巣が外された可能性あり

## 5 まとめ

ツバメの繁殖状況の調査は、1年目は21巣調査され、51羽の巣立ち、2年目は27巣94羽、3年目は17巣62羽、今年は33巣57羽の報告となりました（いずれも繁殖が未確認、失敗を含む）。残念なのは人為的に落とされた巣があるようだという報告が出ていることです。今年の場合、未調査の巣が少なくとも4つは確認できています。それは鶴間駅東側の元スポーツジムがあった建物、同じく鶴間駅西側のスーパーマーケット。西鶴間信号の東側の民家、相模大塚駅北側の銀行の隣です。他にも上草柳9丁目の県営住宅付近でもヒナを多数確認しています。

ヒナの巣立ちが確認できた巣の状況を見ると、巣立ったヒナの平均は過去4年 4.25、4.7、6.2、5.2羽（複数回繁殖も1巣で計算）と推移しています。大体1回の繁殖で4羽というのが多いようで、成績は良いといえるでしょう。しかし、繁殖状況が不明、または失敗した巣を含めて巣立ったヒナの平均を算出すると、2.4、3.48、3.6、1.7羽となり、必ずしも増えているとは言えません。

ツバメが繁殖に失敗する原因は、外敵に襲われることと、人為的なものが挙げられます。鶴間駅そばのスーパーマーケットの巣では、下に三角のカラーコーンを置いて、自転車を置きに来た人に注意を促していました。相模大塚の駅近くの薬局では、壁や地面が汚れてダニなどが発生しないように、ダンボールを置いて頻繁に交換していました。こうすることで糞害を防ぎ、ただ巣を落とすようなことは防げます。多いのはカラスの被害でしょう。今年の報告でも「カラスの仕業らしい」というのがあります。カラスの被害を防ぐにはカラスが近づけないようにすることです。巣のまわりに紐を垂らしたり、カラスが入れない程度のネットを張ることも効果があります。

今回の報告にもありますが、同じ巣で2度繁殖することがあります。ツバメ以外の鳥でもあることですが、2度目の繁殖のときによく観察すると、両親以外の鳥がエサを運んでくることがあります。これは「ヘルパー行動」と呼ばれ、最初に巣立った若鳥や、配偶者に恵まれなかった個体が子育てを手伝う行動です。この行動によって子育てを学び、翌年の繁殖を上手に行えると考えられています。そんな愛くるしい行動を見ると可愛さが増します。

巣立ち直前の巣を観察すると、エサ運びの回数が減ってくるのがわかります。そして巣から離れた場所で大きな声で鳴くと、巣の中のヒナは一生懸命巣の縁で羽ばたき、思い切って飛び出します。複数巣立つときには、最初に巣立ったヒナも親と一緒に巣の外で鳴き、残ったヒナを誘います。

巣をゆっくりと観察していると、エサを与える順番はどうなっているか、糞はどうしているか、オスメスどちらが卵を抱いているか、そんな細かなこともわかるようになりますよ。

環境調査という目的ですから、ツバメがいつ来て、いついなくなっただかの記録もいいですね。南から渡ってくる時期が最近やや早くなっているという報告もあります。地球温暖化と関係あるのでしょうか。





## 平成29年度 大和市市民環境調査事業「ツバメ情報調査」実施報告書

- 協力 公益財団法人 日本野鳥の会  
公益財団法人 大和市スポーツ・よか・みどり財団 大和市自然観察センター
- 編集 大和市 環境農政部環境総務課
- 発行 大和市  
大和市下鶴間一丁目1番1号  
TEL 046-263-1111 (代表)



古紙配合率100%  
白色度70%再生紙を使用しています